

Well Well

Well Well

2013年 冬号

第40号

本山坂井瑠実クリニック透析室から見る六甲の山並み

本山坂井瑠実クリニック 開院

坂井瑠実クリニック 理事長 坂井 瑠実



お金の切れ目が命の切れ目と言われたつらい悲しい時代を経て、日本の透析はそれなりに進化して来ていますが、それでも生命予後は健常人の半分で、合併症は避けては通れず、過酷な水分、食事制限が必要です。

透析のない時代に腎臓の医者になり、透析の黎明期から透析にかかわり、悪戦苦闘して「透析の合併症は透析不足によるもの」もしくは「透析のやり方によるもの」であろうと思うに至りました。

日本の血液透析は週3回4時間がスタンダードとされていますが、一週間168時間働いている腎臓の肩代わりをたった12時間で済ますのですから、一滴も尿の出ない患者さんにとっては、厳重な食事管理をしてやっと生命維持が出来る透析量なのです。CKD=CVDと言われています。無尿の患者さんにとってはわざわざ慢性心不全の病名をつけなくとも心不全は存在し、心血管合併症を増悪させているのです。透析時間が長ければ長いほど、回数が多いほど合併症対策になると思われていますが、それでも“週3回1回4時間、一生”は気が遠くなるほどの時間です。人間だれでも6～8時間は寝ますので、寝ている時間を透析に充てるのが合理的だと気が付きました。そうすれば長時間透析も苦でなく、普通の生活が送れます。患者さんは高い医療費を使って

いる分、働いて税金を払っていただきたいし、社会貢献をしていただきたいと思っています。また施設透析ではなく、CAPD同様自宅で血液透析をするという選択肢もあります。坂井瑠実クリニックグループで現在約50人の方がご自分の家で血液透析をされ、充実したQOLが高い生活を送っておられます。世界では在宅血液透析が急速に伸びています。アメリカでは週6回3時間の透析、カナダでは週5～6回・6～7時間のオーバーナイト透析が普及し、3000gのベビーが通常分娩できると報告されています。

開院した本山坂井瑠実クリニックでは、CKD外来に加え、週3回の透析はもちろん、少しでも長い時間透析が出来るよう配慮しています。特に“オーバーナイト透析”は“在宅血液透析”に繋げていきやすいので、自立をモットーに自己管理、安全対策に力を入れています。

患者さんがお元気で合併症の少ない、普通の生活が出来るようサポートするのが長年透析にかかわった透析医の義務であり使命であると考えています。

一人でも多くの方々にご理解が得られることを願っています。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



◆ エントランス



◆ 待合室



◆ 待合室の前の廊下



◆ 相談室



◆ 第1透析室



◆ 検査室



◆ 透析室



◆ 会議室



◆ ラボスペクト 003

◆ 第2透析室からの眺望 海





◆ 診察室



◆ 第1透析室からの眺望 六甲山



◆ 第2透析室



◆ 個室



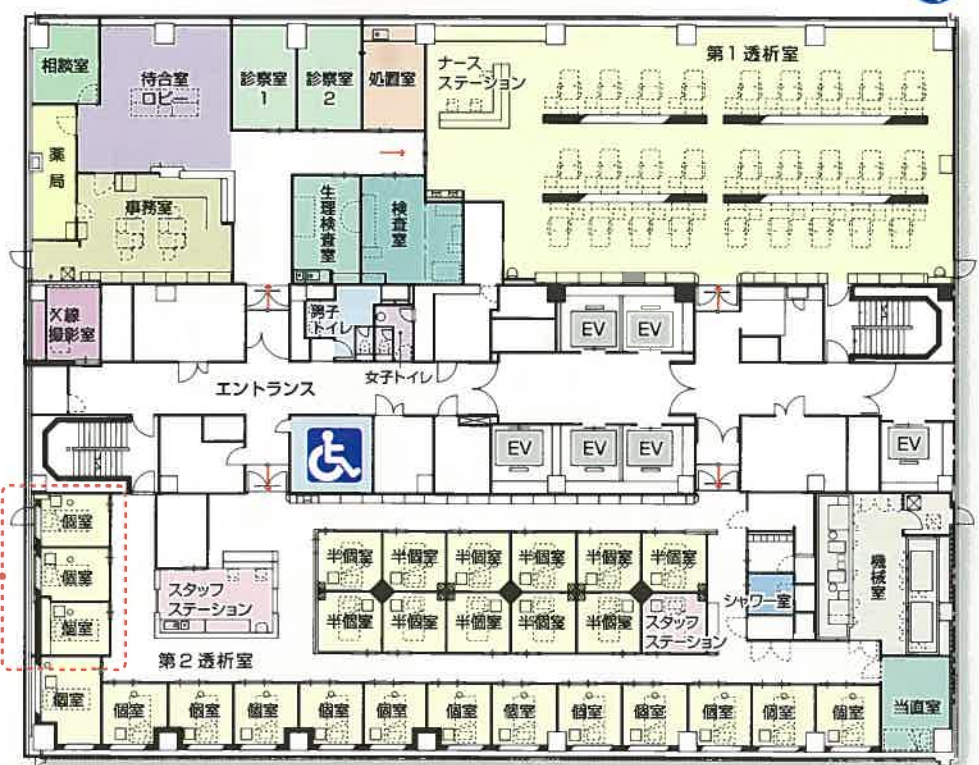
◆ 個室入口



◆ 個室と半個室



◆ 半個室



在宅血液透析
トレーニングルーム



本山坂井瑠実クリニック開院にあたってのご挨拶



本山坂井瑠実クリニック 看護師長 新治 純子

本山坂井瑠実クリニック開設にあたり、ご挨拶申し上げます。

私が透析業務に就いた頃より、坂井先生のお名前は存じ上げていましたが、ご一緒にお仕事させていただくとは、思いもかけないことでした。

先生は、常に透析患者さまが“元気で”“長生き”していただけるよう、真剣に治療に臨んでおられる医師であることは、私が申し上げるまでもなく、皆様周知のことと思います。透析医師を志して以来、ご自分で独立開業されて以降も、その信念は一貫しておられます。外来に来られる患者さまをみていると、先生を信頼し、先生の提唱する治療の考え方が浸透しているなあ、と実感しました。

この度、本山開院にあたっては、オーバーナイト透析、在宅透析を中心に長時間の透析

でいかに患者さまのQOLが上がっているか、先生の生涯事業としての集大成をお手伝いできることは、とても光栄なことだと思います。

今回、本山はofficeビルのテナントとしての開業で、駐車場の問題など、いろいろ患者さまにはご不便をおかけしていることと思います。

私をはじめ技士長、スタッフも透析業務についての経験は長く、透析には精通していても、組織の違いで正直なところ、戸惑うことも多くあります。ご迷惑をおかけしておりますが、安全で誠実な治療を心がけ、坂井先生の背中を見ながら頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともご指導、ご協力をお願いいたします。

本山坂井瑠実クリニック 臨床工学技士長 尾島 昭二

平成25年8月1日に、神戸市東灘区本山南町にある「東神戸センタービル」内に、「本山坂井瑠実クリニック」がオープンしました。御影、芦屋に続く3つめの「坂井瑠実クリニック」です。オープンに際しましては、患者さま、そして、すでに診療を行っている2つの坂井瑠実クリニックの方々にご協力をいただきありがとうございます。そして、現在も、皆さま方にご協力いただき、運営させていただいておりますこと、お礼申し上げます。

私たちは、患者さまに「透析療法を受けながらも、普通の生活をしていただきたい」と考えております。そのために、透析の時間、

回数を少し増やし、症状を緩和させていきたいと考え治療を行っています。患者さまには、「ご自身がやりたい生活を諦めない」ことを目指していただければと思っております。患者さまの願い、希望に寄り添うことができるよう、透析時間のコントロールだけでなく、オーバーナイト透析、在宅透析に力を入れております。

私たち臨床工学技士だけではなく、全職員が、安全を第一に考え、患者さまの生活を支援できるよう努めてまいりますので、今後共、よろしく願い申し上げます。

祝！おめでとうございます！

平成 25 年 10 月 27 日、臓器移植対策推進功労者に対する厚生労働大臣感謝状が坂井瑠実理事長に授与されました。



第9回 長時間透析研究会に参加して



本山坂井瑠実クリニック

臨床工学科 岡留 哲也

2013年11月10日、長崎にて第9回長時間血液透析研究会が開催されました。御影の喜田院長が在宅血液透析における長時間透析の現状および施設隔日透析について発表されました。今年は、過去最高の参加者人数だったとのことで、前日の懇親会ではあっという間にテーブルの料理が無くなっていました(笑)。

今年のテーマは、「長時間透析の光と影～日本の透析を今一度洗濯いたし候～」。長時間透析は良いことだが、もう一歩進んで論議しようとの内容がヒシヒシと伝わってきました。そもそも研究会での長時間透析の定義は、「週18時間以上の透析 週3回では1回6時間以上、隔日では1回5時間以上」となっており、時間以外の条件は決められておらず、参加施設でもバラバラです。各施設が透析時間以外でこだわっていることについての発表もたくさんありました。血流は多いほうがいいのか、少ないほうがいいのか、透析液の濃度は今のままでいいのか、長時間透析をするからといって食事制限は必要ないのか等、演者・会場側と熱い論議が繰り広げられました。

様々な意見を聞いた上で、患者さんの性別・体格・年齢など十人十色であるのに、一律の透析条件の設定は無理であろうということ、つまり患者さんの状態・症状に合わせてオーダーメイドの透析を行うのが一番であると感じました。透析条件は常に一定ではありません(太ったり痩せたりすればDWを変更する等)。検査データも見比べながら、その時点で最適な透析条件が提案できるようこれからも精進していきたいと思えます。



喜田院長



長崎にて亀山社中を組織した坂本龍馬の像

「透析中の出血事故に備えて」

～ 漏血センサの使用 ～



本山坂井瑠実クリニック

臨床工学科 杉本 騰寿

血液透析は、ポンプの力で強制的に血液を体外循環させる治療です。みなさんの大切な血液を、一時的とはいえ体の外に出しているということは、実はとても危険なことであるという認識を忘れてはいけません。

透析中の重大事故のひとつに出血事故があります。針が抜けたり、回路との接続部が外れたりするなどし、血液を大量に失ってしまう事故です。ポンプの力によりほんの数秒、数分の出血でもその量はとても多いものになってしまいます。残念なことに、全国では毎年数件、透析中の出血事故による死亡例が報告されています。原因は様々ですが、事故をより重大なものにしてしまう原因の一つに、出血感知の遅れということが挙げられます。

このたび、そういった事故のリスクを少しでも減らすために、漏血センサを開発いたしました。シート状のセンサを、穿刺部保護のガーゼの間に挟み、出血をモニタリングします(図1)。これまでも同様の装置は販売されていましたが、この装置の特徴は透析装置(現在は日機装のみ)と連動して特別な警報を鳴らし、ポンプを停止することができる点にあります。透析装置から特別な警報が鳴ることでスタッフは事故に気づきやすくなり、またポンプを停止することで必要以上の出血を防ぐことができます。

回路のテープ固定や接続をしっかりする、定期的な針抜けなどのチェックをすることは、私たちスタッフの基本的な安全対策です。しかし、それでもなお起こってしまった事故の被害を最小限に防ぐために、今後漏血センサを活用していきたいと考えています。

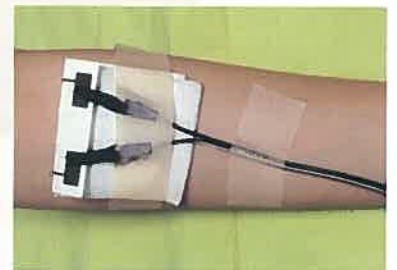
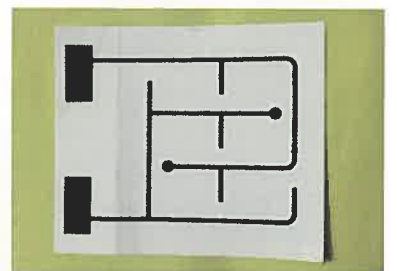


図1. 漏血センサの取り付け方



漏血センサ本体



センサシート

11月16日(土)に在宅血液透析懇話会を六甲アイランドファッションマートにて開催しました。懇話会では、坂井理事長の「しっかり透析しましょう！」に始まり、長時間透析研究会報告、漏血センサについての話題と、参加者の皆様での意見交換や要望等をお聞きしました。





今年もサンタさん?



がやって来た!!



去る12月8日(日)六甲アイランド 神戸ベイシエラトンホテル&タワーズ 六甲の間にて坂井瑠実クリニック 患者会 友愛会の第15回クリスマスパーティーが開催されました。

当日は、御影、芦屋、本山の先生方はじめスタッフの皆さん、患者会会員とその家族の皆さん、80名の方が参加して下さいました。友愛会 永井会長の挨拶、坂井瑠実理事長の挨拶、田中院長の挨拶が順調に進み、喜田院長による乾杯の発声で始まりました。

美味しい料理(和食フレンチ)に舌鼓を打ちながら、今年は、アトラクションとして 御影スタッフ西原さんを含むボランティアグループ あすなろの皆さんによるマジックや腹話術、南京玉すだれがありました。マジックでは、お金が増えたり大きくなったりあんなお財布が欲しい物です。また、腹話術の人形との掛合いと見事な南京玉すだれに子供たちも目を丸くして見入っていました。そのあとは、子供たちがお待ちかねのサンタさ



んの登場です。サンタさんの登場に子供たちも大喜び! 大きな長靴をプレゼントしてもらって、大満足でした。大人方々は、抽選会に歓声をあげ、そのあと美味しいお酒を頂きながら、さらにカラオケで盛り上がりました。2時間半のパーティーでしたが、あっという間に過ぎてしまいました。

最後に副会長泊さんより感激する一言を頂き、皆さん大満足で帰って頂きました。

クリスマス会を企画、開催をして下さった幹事の皆さんお疲れ様でした。サンタさんの香川さん、ありがとうございました。



2013/12/08



編集後記

皆さん、お元気でしょうか? 2010年に編集後記を書かせて頂いてから3年が経ちました。その間、坂井瑠実クリニックは今年8月に本山が開院、私は、自己穿刺をするようになり隔日透析になりました。

皆さんの中にも色々な変化があったのでは、ないでしょうか?悪いことも良いことも... 来年こそは、来年もとそれぞれが思われていることでしょうか?

編集委員もまた変化、成長をして行きたいと思えます。

それには、新しいパワーが必要です。興味のある方、編集委員会に参加しませんか? 皆さんの参加をお待ちしております!

(編集委員/岡田 京子)

発行所 医療法人社団
坂井瑠実クリニック
電話 078-822-8111
〒658-0046
神戸市東灘区御影本町2丁目11-10

発行責任者 坂井瑠実
顧問 三上珠実
編集責任者 城井慶子
発行日 平成25年12月27日
印刷 田中印刷出版株式会社
〒657-0845
神戸市灘区岩屋中町3-1-4